



上/1階リビングの吹き抜けの間接感。2階のベッドルームへと続いていく。中/ダイニングルームには、アールヌーボー様式のテーブルと食器棚が、壁の一角に子供たちの写真を焼き込んだ記念のカップが置かれている。下右/部屋の要所要所に置かれている調度品はエミール・ガリの作品



2階のベッドルームからは、1階のリビングの全貌を眺めることができる。部屋数を大層に減らして得た開放的な空間は、共に暮らす人の思ひや気配さえも伝えてくれる



1階キッチン正面の窓の先はテラスになっている。テラスの東(左)側が1階リビングになっている。西(右)側にはバスルームとゲストルームが配されている

撮影：佐藤成範



エントランスに足を踏み入ると、緩やかな曲線を描くガラスのパーテーションがしつらえられており、リビングへと動線をいざなってくれる。写真提供：クラフトスピリッツ

DATA

【所在地】茨城県つくば市 【建築種類】一戸建て専用住宅 【部屋構成】8LDK→3LDK+S 【竣工】2013年7月28日 【構造】木造 【土地面積】382.23㎡ 【延べ床面積】1階：138.71㎡、2階：96.89㎡ 【設計・施工】クラフトスピリッツ

愛のまなざしが満ちる家

リフォーム編①

Part 2 賢いリフォーム術

子の成長とともに家族のありようが変わっていくように、住まい方にも様変わりが求められるようになってくる。

子 供たちの独立を機にしたリフォーム。主の願いは、ともかく「明るく」ということであった。

資料の一環として手渡された数冊の家族のアルバム。そこには子供たちの成長と、家族の幸せな日々の記録が写っていた。そこに写っていた輝くばかりの笑顔から「明るさ」のヒントを読み取ることはそう難しいことではなかった。

まずは、8LDKあった部屋数を3LDK+Sへと大きく減らした。壁が取り払われることで、明るさの空間が広がることになる。最も革新的だったのは、1階のリビングの上階を全て取り除き、吹き抜けにしたことである。結果、南側、東側に窓を大きく取ることができたのだ。さらに手作業で仕上げた白壁や家具のオフホワイトの布地が、ただ明るくだけではない、愛に満ちあふれた柔らかな空間をつくり出している。